

甘しよの中耕培土作業体系化に関する研究

(第1報) 機械作業に関する試験

高木文男・宮越秀一・井手上孝
(九州農業試験場)

TAKAKI, F., MIYAGOE, H. and IDEUE, T.
Studies on the Systematization of Cultivating
and Hilling Operations in the Sweet Potato Culture
(I) On the mechanized operations

中耕培土作業体系を確立するために、うね型の違いと培土効果、培土板の型と培土効果および、培土時期と雑草との関係、作物に与える影響などについて検討したので、その概要を報告する。

試験方法

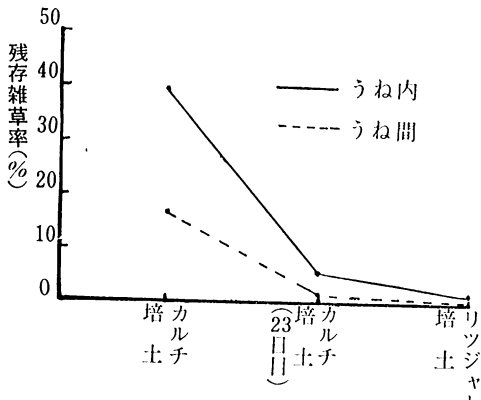
供試品種は農林3号と農林2号で、うね幅は75cm、株間30cmとし、5月25日に植え付けた。平うね出発区はカルチ培土2回とワイダー1回、最後にリッシャーで高うねを形成した。

高うね区はカルチによるうねの両肩落しとリッシャー培土を組み合わせ、2回行なった。

結果および考察

1. 平うね出発高うね仕上げ法、残存雑草率は第1図のとおり、機械除草効果のある時期は第2回のカルチ培土までであり、雑草発生初期の中耕培土に主体を置くべきである。

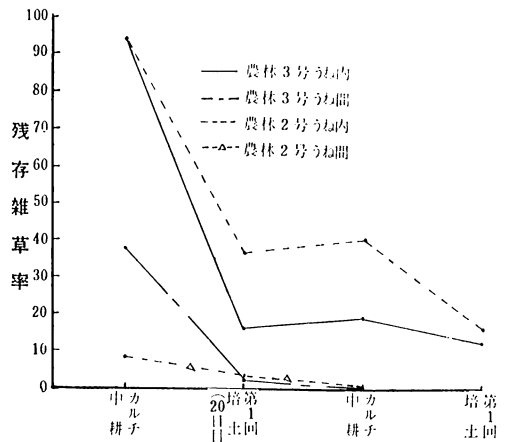
第1図 平うね出発の残存雑草率



(注) うね内：苗を中心に左右15cm計30cm幅

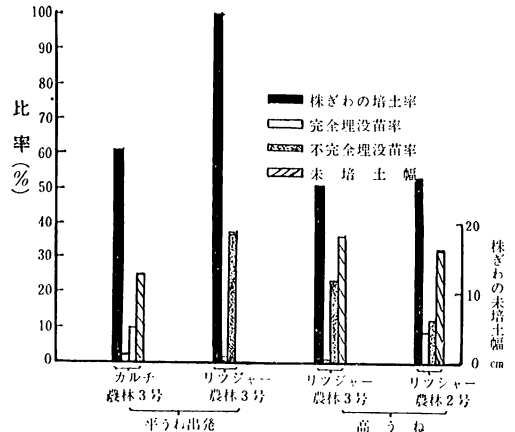
2. 高うねの中耕培土、残存雑草率は第2図のように平うね出発より残存率が高いが、同様に雑草発生初期の培土効果が大きい。

第2図 高うねの残存雑草率



3. 株ぎわの培土率、第3図のように平うね出発が株ぎわの培土率が高く、高うねではやや低く、除草効果の違いはここに原因がある。株ぎわの培土率を高めようとするれば埋没苗が多くなる。

第3図 株ぎわの培土率と埋没苗率



4. 培土板の型式と培土効果, 第4図に示すように高うね出発でしかも押し上げ型リツジャーが最も株ぎわの培土率は低く, 第5図の反転型リツジャーに護葉板を付属させたものが培土率は高かつた。埋没苗は, 反転型リツジャーがすくなく, 護葉板の効果は大きい。

第5図 株ぎわの培土率と埋没苗率

